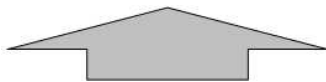


施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-07-603
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和53年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
全国大会に出場する市民や団体等		市民が、スポーツに関する全国規模の大会の出場に要する費用を助成する。 [助成対象大会] 学校教育の一環として、文部科学省、地方公共団体又は学校体育連盟等が主催し、共催し、又は後援し、かつ、筑紫野市教育委員会が認める大会など				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		[助成対象者] 地区大会等により選出された大会に出場登録した監督、コーチ、選手等であつて、かつ、市内に住所を有する者など				
全国大会に出場する個人・団体に、筑紫野市における社会体育に寄与し、今後の貢献に期待できるものとして支援する。		[助成金の額] 1人あたり2万円。また、1団体当たり20万円を限度とする。				

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
全国大会出場の際に補助を活用した個人	人	109	116	98	98			55
全国大会出場の際に補助を活用した団体	団体	6	3	2	2			5

5. コスト								
事業費	計	千円	2,920	2,620	2,600	2,600		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他 一般	千円	1,000	1,000	108	0		
正職員人工数	人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費	千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	4,483	4,225	4,276	2,600			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	全国大会等の開催がコロナ禍前の水準に戻り、また本助成制度の周知が進んできたことで、高い水準で申請が行われている。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
体育奨励助成金事業については、市民の中で定着しており、スポーツ振興や競技力向上にもつながる事業であるため、本事業については今後も維持する方向で検討する。 今後本事業を継続するために、財源の確保や支給要件の見直し等を引き続き検討する。	（課題） 体育奨励助成金の財源については、一般財源及び体育奨励基金にて運用してきたが、事業を継続するため、財源含めて改めて本事業の在り方を検討している。

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
スポーツ基本法第21条の規定に基づき全国大会に参加するための補助として、筑紫野市体育奨励基金条例第6条第1号に規定する全国大会出場等特別助成について必要事項を定め、出場する個人・団体に対して、筑紫野市におけるスポーツの推進に寄与し、今後の貢献に期待できるものとして支援する。	